

鴨緑江株木公司ニ関スル協定

内容

- 鴨緑江日清合同材木會社章程
- 鴨緑江株木公司業務章程
- 鴨緑江株木公司業務章程ニ関スル覚書

鴨綠江日清合同材木會社章程(一八九〇年
明治四年五月十四日北京ニ於テ調印)

大日本帝國特命全權公使男爵林權助大清國外務部會辦

大臣那桐各本國政府ノ委任ヲ奉シ明治三十八年十二月

二十二日即チ光緒三十一年十一月二十六日締結セル滿

洲ニ關スル日清條約附屬協約第十條ノ規定ニ

基キ日清合同材木會社ノ章程ヲ協定スルコト左ノ如シ

第一條 鴨綠江右岸岸帽兒山ヨリニ十四道溝ニ至ル間談

江面ヲ距ル六十浬里内ヲ劃定シテ界ト爲シ(奉天

ヨリ委員ヲ派シ日本委員ト合同測定シテ標ヲ立テ

界ヲ不ス)界内ノ木材ハ日清兩國合資ヲ以テ採伐

事業ヲ經營スルモノトス但シ會社創業ノ始ニ於

テハ兩國ヨリ買テ派シ局ヲ設ケテ營業シ一箇年後

一切ノ事務整備妥當トナリタルヲ俟テ兩國ヨリ

招商承辦セシムヘシ

第一條 日清合同ノ木材會社ヲ鴨綠江採木公司ト称ス

第二條 本會社ノ資本ヲ參百萬元トシ日清兩國ヨリ各

半額ヲ出資スヘシ

第三條 本會社ハ其ノ發局ヲ安東ニ設置ス本會社ヲ必

要ト認ムル時ハ督辦ニ届出ノ上夫々各地ニ分局ヲ

設置スルコトヲ得

第四條 本會社ハ從來ノ清國木把ノ事業ヲ保全スルコ

トニ同意ス因テ第一條ニ聲明セシ畫定界内ハ會社

ノ採伐ニ歸スルモ其ノ界外及渾江ノ森林ハ仍ホ從

來ノ清國木把ノ採伐ニ歸スルモノトス但シ木把ノ

要スル資金ハ本會社ヨリ借入ルヘシ其ノ採伐セ

ル木材ハ江浙鐵路公司所要ノ枕木及渾江沿岸居民

自由ノ木材ヲ木把ヨリ直接買取り得ルノ外其ノ餘

リハ全部會社ノ買収ニ歸ス會社ハ市價ヲ乘ミテコ

レヲ突賣シ任意重斷スルコトヲ得ス

第五條 會社自ラ採伐セル木材及木把ヨリ買収セル木

材ニテ清國政府及清國諸官署ニ於テ之ヲ需用ス

ルトキハ護照ヲ差出シテ會社ヨリ買取ルヘシ但シ

此場合ニハ會社ハ完費ニヨリテ計算シ價格ヲ高ク

シテ得ス

第六條 本會社ノ經營期限ヲ二十五手トシ滿期ニ至リ

清國政府ニ於テ會社ノ經營事業ヲ尚ホ妥當ナリト

認ムルトキハ會社ハ清國政府ニ出願シテ期限延長

ノ許可ヲ求ムルコトヲ得

第七條 本會社ハ督辦一人ヲ置キ奉天督撫ヨリ東遼道

第八條 本會社ハ督辦一人ヲ置キ奉天督撫ヨリ東遼道

第九條 本會社ハ督辦一人ヲ置キ奉天督撫ヨリ東遼道

第十條 本會社ハ督辦一人ヲ置キ奉天督撫ヨリ東遼道

第十一條 本會社ハ督辦一人ヲ置キ奉天督撫ヨリ東遼道

台ニ命シ兼任マシメ會社ノ經營事業ヲ監督ス又理事長一人ヲ置キ日清兩國ヨリ各一名ヲ任命シ會社一切業務ヲ經理ス其ノ他ノ理事技師等ハ理事長協議ノ上選任ス若シ界内ニ於テ入山採木ノ為列國人ヲ雇用スルノ必要アルトキハ理事長ヨリ隊ヲ督辦ノ認可ヲ求メ之ヲ定ムヘシ

第八條 本會社ハ毎年末ニ於テ其ノ年内一切ノ事業報告書及收支計算書ヲ作成シ兩國當該官憲ニ提出シテ査閲ヲ受クヘシ

第九條 本會社ハ其ノ收支ヨリ一切ノ費用ヲ引亦リタル純益ノ百分ノ五ヲ報效金トシテ清國政府ニ上納シ残余ノ利益ハ日清兩國株主ノ均等分配ニ歸ス會社ノ費用ハ任意又出スルヲ得ス期ヲ按ニテ會社供

用人ノ俸給其他一切ノ經費額ヲ豫算シ督辦ニ提出シテ認可ヲ受クヘシ

第十條 會社設立ニ關スル一切ノ辦法ハ此ノ大綱訣定ノ後一箇月以内ニ奉天督撫及在奉天日本總領事ヨリ各一名ノ委員ヲ任命シテ詳細ナル章程ヲ商議セシメ協定ノ後之ヲ會社ニ交付シテ遵照辦理セシメ三箇月以内ヲ限リ開業スルモノトス以後會社ニ於テ別ニ規定ヲ定ムル場合ニハ督辦ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

第十一條 本會社ノ納付スル木材稅ハ奉天ニ於テ詳細ノ章程ヲ商議スル際兩國委員ニ於テ從來規定ノ稅額ヲ查明シ地方官ニ商議シ同意ノ上酌減スヘシ但シ會社カ輸入スル機械及伐木ニ必要ナル器具等

一 就テハ一切ノ税金釐金等ヲ免除スルシ
 第十三條 本會社開業ノ後ハ日本國政府ノ現在ノ鴨綠江
 木材廠ヲ全ク撤去スルコトニ同意ス
 大日本國特命全權公使 野島 林 權 助
 大清國小務部會辦大臣 那 桐 元

大日本國明治四十一年五月十四日
 大清國光緒三十四年四月十五日

在北京

鴨綠江採木公司業務章程 (明治四十一年九月二日奉天ニ於テ調印)

大日本帝國領事岡部三郎大清國奉天度支使辰錫鑾各本
 國政府ノ命ヲ奉シ明治四十一年五月十四日即チ光緒三
 十四年四月十五日協定セル鴨綠江採木公司章程第十一
 條ノ規定ニ基キ該公司ノ業務章程ヲ協定スルコト左ノ
 如シ

第一條 本會社ハ明治四十一年五月十四日即チ光緒三
 十四年四月十五日ヲ以テ日清兩國間ニ議定セラレ
 タル日清台辦鴨綠江採木公司ニ関スル取極書並本
 章程ニ遵照シテ營業スルモノニシテ明治四十一年
 九月二十五日即チ光緒三十四年八月一日ヲ以テ開
 業ス

第二條 本會社ハ取極書ニ從ヒ兩國ヨリ買シ取シ局ヲ

設テラ開業シ一箇年後一切ノ事務整理妥當トナリ
クセラ候テ西國ヨリ招商兼辦セシムヘシ本會社
開業ノ後ニ至リテ更ニ株式募集章程ヲ定ムヘキモ
ノトス

第三條 本會社ノ資本金三百萬元ハ開業ノ日ニ於テ日
清兩國政府ヨリ各半額ヲ出資ス商辦ニ改ムル際
ハ各具資本金ヲ全部回收スルモノトス

第四條 會社ノ資本金並收支一切ノ勘定ハ凡テ清國銀
元ヲ以テ定トナス且ツ西理事長協議ノ上日清兩國
ノ銀行ニ分存スルモノトス

第五條 本會社ニ置ク職員ハ左ノ如シ

督辦 一人
理事長 一人

理事 二人以上

技師及其他ノ職員若平名

督辦ハ奉天督撫ヨリ東邊道台ニ命シテ兼任マシメ

會社ノ經營事ヲ監督ス

理事長ハ日清兩國ヨリ各一名ヲ任命シ會社一切ノ

業務ヲ經理ス

理事ハ理事長協議ノ上選任シ各政府ニ報告スルモ

ノトス

技師及其他ノ職員ハ理事長協議ノ上之ヲ採用ス

理事以下ノ員數ハ成ル可ク西國人中ヨリ同數ヲ出

スモノトス

第六條 督辦ノ報酬ハ本公司第五會計年度即チ本年十
一月一日ヨリ毎年五十元ト定メ理事長ノ俸給ハ五

年一萬五トシ理事ノ報給ハ理事長協議ノ上之ヲ定
ム(大正元年十一月二十八日改正)

第七條 技師及其他ノ職員ノ定員數並俸給定額ハ理事
長ヨリ督辦ニ協議ノ上表ヲ製シテ之ヲ定ム

第八條 本公司ノ文書帳簿中主要ナルモノハ日平兩國
文ヲ用ヒ各一通ヲ備ヘ其ノ會計帳簿ハ第五會計年
度即チ本年十一月一日ヨリ洋式帳簿誌法一通ヲ備

ヘテ取調ニ便ナラシムヘシ兩國ハ官天ヲ取ミテ建
時會社業務ノ施設ヲ監査ニ會社ノ金庫帳簿及諸帳

ノ文書ヲ検査シ且ツ會社ニ對シ營業上諸般ノ計畫
及景況ニ關スレ報告ヲ求ムルコトヲ得(大正元年十一月二十八日改正)

第九條 本會社一切ノ決算記數ハ凡陰曆ヲ用ヒ以テ取
引ニ便ナラシムヘシ商辦ニ改ムル際ニハ直チニ決

算ヲナスモノトス

第十條 本會社ハ日清兩國ノ合資ニ係ルヲ以テ相互協
商ノ上許可スルニ非サレハ本會社自ラ増資ノ為メ

借款ヲナスコトヲ得ス

第十一條 本會社ハ純益ノ百分ノ五ヲ以テ積立金トス

此ノ積立金ノ額ハ資本金ノ三分ノ一ニ達スルヲ以
テ限度トス

前項ノ積立金ハ前條ニ倣ヒ相互協商認可スルニ非
サレハ快用スルコトヲ得ス

第十二條 理事長ハ歲入歳出ノ豫算表ヲ調製シ督辦ノ
認可ヲ受ケレモノトス

前項ノ豫算ハ款項ニ区分シ收入ノ性質及支出ノ目
的ヲ明示スヘシ

第十三條 收入又云其他會計ニ関スル規程ハ西理事長ニ於テ協商議定シ督辦ニ報告スルモノトス

第十四條 本會社ヲ取扱フ一切ノ材木ニ對スル税金ハ從來規定ノ山價及客稅ノ稅則(山價及客稅ノ稅則ハ別ハ別表ニ依ル)ニ照シ其ノ二割ヲ減シタルモノヲ本會社ヨリ納付スルシ船捐ハ仍從來ノ規定ニ照シテ辦理シ本會社トハ關係ナキモノトス其ノ他木材ニ對スル検査料、押盜費等ノ各種ノ諸掛、料金等ハ一切之ヲ免除セラレ若シ汽船ニ積載シテ輸出スル場合ニハ船捐ノ代リニ海關規則ニ依リテ輸出稅ヲ徵收セラルヘシ本會社ノ納付スルキ山價、客稅ハ從來ノ慣例ニ依リ木材ヲ本會社ヨリ賣却スルトキニ納付スルモノトス

本會社ノ營業及所得並會社使用ノ機械、採木器具等ニ對スル税金諸掛ハ一切免除スルモノトス但シ會社所有ノ土地ニ對スル租稅ハ尙從來ノ規則ニ照シテ納付スルコトヲ要ス

第十五條 江浙鐵路公司所管ノ枕木ハ本會社ヨリ直接ニ買取ルコトヲ得ルモ必ス該鐵路公司ノ執照ヲ携帯スルニ而シテ該執照ニハ數量ヲ明誌シ先ッ東四道臺ニ呈シ證明加印ヲ受クルヲ要ス輸出ノ際ニハ本會社督辦ヨリ員ヲ派シ検査ノ上追加マシムルモノトス

第十六條 滬江沿河居民自用以外ノ木材ハ凡テ本會社ノ買取ニ歸スルキハ已ニ北京取極書ニ規定スル處ニ依リ先ッ地方官ヨリ之ヲ告示シ若北京取極書ニ

遺棄スル者アモ場合ニハ隨時本會社ヨリ地方官ニ協
商議罰シ假借スルカラサレモノトス

第十七條 漂流木ノ整理ハ本會社之ニ任スルモノトス
但シ漂流木整理ニ関スル規則ハ理事長協議ノ上督
辦ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

炭木存在スル會社ハ本會社ノ成立ト同時ニ該地方
官ヨリ告示シ悉ク解散スルモノトス

第十八條 本會社ノ伐木地域ハ北京取極書ニ依テ鴨綠
江石岸帽子山ヨリ二十四道溝ニ至ル間江面ヲ云ル

六十青里ヲ以テ界トナシ西國ヨリ委員ヲ派遣シ該
地方官ト合同測定ノ上圖面ヲ作り標ヲ立テ之ヲ

表示ス

第十八條 本會社ハ森林ノ狀況ヲ酌量シ伐採スルモノ

ノニシテ採伐計畫ノ順序及毎年伐採シタル地域並
樹木ノ種類等ハ逐一圖表ヲ作りテ奉天督撫ニ報告
シ其ノ査閱ニ備フヲシ

第二十條 本會社カ伐木、運木、編筏、運筏ニ要スル一
切ノ人夫ハ專ラ清國人ヲ雇用シ以テ地方人民生業
ノ保護ニ資ス若シ別國人民ヲ雇用スルノ必要アル
トキハ取極書ニ依テ督辦ニ商議シ其認可ヲ求メテ
之ヲ定ムヲシ

第二十一條 木材ノ賣買ハ本會社ノ營業ニ屬スト雖モ
青園料棧等ノ仲買人等ハ彼等ノ通り開店シ隨時本
會社ト打合テノ上仲買業務ニ従事スルコトヲ得ル
モノトス

大日本帝國領事 岡部三郎 印

大清國奉天慶天侯 張錫鑾 印

大日本國明治四十一年九月十二日
大清國光緒三十四年八月十八日

在奉天

鴨綠江採木公司業務章程 = 關スル覺書

（一八九八年 明治四十二年九月二日奉天ニ於テ調印）

大日本帝國領事岡部三郎大清國奉天慶天侯張錫鑾各本
國政府ノ命ヲ奉シ明治四十一年五月十四日即チ光緒三
十四年四月十五日協定セル鴨綠江採木公侯ノ業務章程
ニ關スル覺書ヲ協定スルコト左ノ如シ

第一 章程第四條ニ所謂清國銀元ハ北洋銀元ヲ指スモ
ノニシテ將來奉天銀元カ確定ニ流通スル後ニ至ラ
ハ便宜改メテ奉天銀元ヲ用フルモノトス兩國最初
ノ資本金ハ便宜兩銀ヲ以テ充テスルコトヲ得此ノ
場合ニハ開業當日ニ於ケル北洋銀元ノ相場ニ照シ
換算スルキモノトス

第二 北京取極書第六條ニ依リ清國政府及清國諸官署

ノ買取ル本材ニ対シテハ本會社ハ實際直接ニ要セ
 且費用及税金以外ニ會社ヲ維持スルニ必要ナル俸
 給其他一切ノ經費ノ歩合ヲ加フルモノトス
 第三 本會社成立以前ニ要スルキ創立費ハ兩國ヨリ一
 時之ヲ立替ヘ置キ會社成立ト同時ニ會社ヨリ全部
 償還スルキモノトス右創立費ノ豫定額ハ七萬元以
 内トス
 第四 銀行ヨリ預ケ金ヲ引出ス際ニハ西理事長ノ連署
 花押ヲ要スルモノトス
 第五 本會社ノ營業ニ關スル警察事宜ハ凡テ清國警察
 ノ管理ニ歸ス
 第六 本章程ハ西國委員ノ協商ヲ經テ酌定シタルモノ
 ニシテ先ツ試ニ之ヲ施行シ商辦ニ改メタル後ニ至

リ不都合ノ虞ナキヲ認メタルトキハ即チ之ヲ該株
 式會社ニ交付シテ遵守辨理セシムヘシ
 章程第五條ニ載スル所ノ本會社職員ハ商辦ニ改ム
 ル際酌量シテ留任若クハ解職スルモノトス
 大日本帝國領事 岡部三郎
 大清國奉天度支使 張錫鑾

大日本帝國明治四十一年八月十一日 在奉天
 大清國光緒三十四年八月十六日



一、鴨緑江採木公司ノ沿革大要

鴨緑江採木公司ニ對スル政府持分ノ賣却ニ
關スル件

鴨緑江採木公司ノ沿革ヲ見ルニ、明治三十八年十二月
二十二日日支兩國間ニ締結セラレタル「滿洲ニ關ス
ル日清條約附屬協定」第十條ニ基キ、明治四十一年五
月十四日「鴨緑江日清合同採木會社」ノ件ニ關スル取
極書ニ十三ヶ條ヲ協定シタリ、右協定ノ要旨左ノ如シ

(1) 鴨緑江右岸帽兒山ヨリ二十四道溝ニ至ル間、該江

面ヲ距ル六十清里内ヲ劃定シテ界トナシ界内ノ

木材ハ日支兩國合資ヲ以テ採木事業ヲ經營スル

コト

(2) 資本金ハ三百萬元トシ日支兩國ヨリ各半額ヲ出